

水害で義父母を、2カ月後に夫を亡くす

令和2年7月豪雨から1年

熊本県人吉市の門徒を訪ねる

「人の温もり支えに過ぎた」

「令和2年7月豪雨」から1年。熊本県人吉市の高台に建つ村山公園仮設団地を訪ねた。水害で義父母の國本一さん（当時80）と洋子さん（同79）を下とした同市・人吉別院門徒の國本五月さん（46）は、昨年11月からこの仮設住宅で次女の綾音さん（中1）と暮らす。1周年に思いを聞いた。



人吉別院門徒 國本五月さん

一さんと洋子さんを失ったその2カ月後、光一さんは急性骨髄性白血病で亡くなった。56歳だった。

◇ 綾音さんを車に乗せて高台へと避難した。

昨年7月4日午前6時頃、豪雨が降り続ける中、「球磨川が危ない！橋（西瀬橋）が流されたみたい」。友人からメールやラインが続けざまに届いた。

五月さんたちと別に暮らす義父母の家は、決壊した球磨川の堤防から直線距離で約1000m。心配になり、5月夕方に名古屋から急きよ、帰省していた。

「じいちゃんの顔は腫れてた。ばあちゃん顔には傷があった」。つらい思いがよみがえり、春樹さんの表情が曇る。

翌7日、人吉市から東に約20kmのあさぎり町の会館で葬儀を行った。五月さんらの自宅

近所の方がゴムボートを準備して救助に向かおうとしている。助けられるから、安心してと言われ、自宅に戻り、綾音さんを車に乗せて高台へと避難した。



左から國本春樹さん、綾音さん、五月さん、涼夏さん

分が病気でなければ、ことよりも、他の人の濁流の中を泳いででも両親を助けにいったの義母さんがみんなに優しく接すること。それで、せめしかったように、後に入院するまでに自分残された私たちもみんなに優しく接すること。できる人間になれるよう生きていきたい。

2日後、光一さんは骨髄移植の手術を受けた。長年農作業をしてきた力強い手のひらの感触を今も見えたが、合併症で9月18日に亡くなった。

五月さんと綾音さんは、半壊した自宅の一室にビニールシートを敷いて約4カ月を過ごした。11月に村山公園仮設団地に入居した。

一さん、洋子さんの余裕はない」と語りつづ、この1年、生活を営み、仏壇にお参りに、別院をはじめ、多くの方からさまざまな支援をいただいた。人の温もりを支えに過ぎてきた」と噛みしめるように話した。

その夜、両親の遺骨を一時預けるため別院に参拝した光一さんの姿を山崎副輪番は忘れられないという。「水